

# リンドウ中晩生品種の定植年採花技術

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

## 1 部門名

花き - リンドウ - 作型・栽培型

## 2 担当者

矢島 豊・宗方宏之

## 3 要旨

リンドウ生産による収益性を高めるため、生育旺盛な中晩生品種を用いて、定植年に株当たり約1本の切り花を収穫する技術を開発した。

- (1) 「ふくしまかれん」、「ふくしまほのか」等の生育旺盛な中晩生品種を対象とする。なお、栽培地における通常の開花盛期が10月以降になる場合は適さない。
- (2) 定植30日後にジベレリン100ppm水溶液を定植苗に茎葉散布する。10月末日までに切り花を収穫するには、5月に定植を終え、ジベレリン処理は6月末日までに終える。なお、処理時期を遵守しても、気象条件(秋冷など)の影響により開花に至らない可能性がある点に留意する。
- (3) ジベレリン処理により抽だい茎の生育が促進され、販売可能な水準(切り花長60~70cm、花段数5段程度)の切り花が株当たり約1本収穫できる(写真1、表1)。開花時期は2年生株以降の通常の開花期より40日程度遅くなる。
- (4) 支柱とフラワーネットを速やかに設置し、薬剤処理後は定植2年目以降と同様の栽培管理を適宜実施する。
- (5) 定植年の採花により、翌年の草丈がやや短縮する場合があるが、実用上の問題となる生育差は生じない。



表1 切り花品質と採花期(2011年、郡山市)

供試 <sup>2</sup> 品種	ジベレリン 処理時期	切り花長 (cm)	花段数 (段)	茎 径 (mm)	採花盛期
ふくしま かれん	定植30日後	61.1	4.9	4.0	10月6半旬
ふくしま ほのか	定植直前	42.3	4.3	3.3	10月4半旬
	定植日:6月10日、ジベレリン処理日:7月10日				

写真1 定植年の切り花  
(「ふくしまかれん」、左:定植30日後、右:定植直前)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度~24年度
- (2) 研究課題名 福島の顔となるリンドウの高収益を実現する安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度~24年度センター試験成績概要